

Aブロック 地域産業・文化等の振興		Bブロック 人材育成・確保		Cブロック 移住、定住	
1,	北海道 音更町	12,	岩手県 紫波町 (人材派遣型)	23,	新潟県 見附市
2,	北海道 標茶町			24,	福井県 (人材派遣型)
3,	岩手県 盛岡市	13,	群馬県 下仁田町		
4,	栃木県 下野市 (人材派遣型)	14,	京都府 南山城村 (人材派遣型)		
5,	東京都 町田市	15,	熊本県	まちづくり	
6,	新潟県 柏崎市	16,	熊本県 八代市	26,	北海道 登別市
7,	富山県 南砺市	17,	熊本県 天草市 (人材派遣型)	27,	北海道 猿払村
8,	長野県			18,	大分県 由布市 (人材派遣型)
9,	奈良県 曾爾村 (人材派遣型)	子育て支援、少子化対策			
		環境保全		30,	高知県 梼原町
10,	広島県	19,	愛知県 豊明市		
11,	大分県 竹田市	20,	滋賀県 東近江市		
		21,	京都府		
		22,	岡山県 岡山市		

Aブロック 地域産業・文化等の振興

1,	北海道 音更町	7,	富山県 南砺市
2,	北海道 標茶町	8,	長野県
3,	岩手県 盛岡市	9,	奈良県 曾爾村 (人材派遣型)
4,	栃木県 下野市 (人材派遣型)	10,	広島県
5,	東京都 町田市	11,	大分県 竹田市
6,	新潟県 柏崎市		

背景

- ❑ 音更町は国内を代表する農畜産物の産地でありながら…
- ・地場産品は町外の消費がメイン
- ・観光資源として機能していない

現状の課題

- ❑ 現在の道の駅は…
- ・観光ルートから外れている
- ・施設の狭あい化や老朽化が進み情報発信が十分にできていない

事業の目的

- ❑ 課題解決に向けて…
- 高速道路のICに近接した観光客の主な移動ルートに「**新たな道の駅**」を移転整備

これまでの取組

- ❑ 実施・運営事業者の決定（DBO方式）
- ❑ 建設・外構工事に着工（2022年4月オープン）
- ❑ 総事業費 1,119,641千円



事業
内容

得られる
成果等



『食と体験を基に人々が賑わい交流を行う拠点施設』



■ 「新たな道の駅」外観

◆道東エリア・十勝の玄関口として、農畜産品、特産品をはじめ文化、風景など十勝・音更の魅力を発信する施設として整備。各種イベントの開催で町全体を活性化。

- カルチャー教室
- 演奏会
- 飲食店コーナー
- 『なつぞら』エリア
- そり滑り



※画像はイメージです

成果・目標

- ☑ 道の駅来館者数
年間 700,840人
- ☑ 道の駅の販売額
年間 414,310千円

※ いずれも事業開始前からの増加分

企業に求めるもの等

- ☑ **協働のまちづくりのパートナー**



企業のメリット

- ☑ 「北海道」・「とかち」・「おとふけ」のイメージがもたらすブランディング効果
- ☑ 「新たな道の駅」を活用した**企業のイメージアップ**や**新事業の展開**

標茶町・釧路湿原国立公園茅沼地区観光宿泊施設エリア上質化事業

背景

釧路湿原国立公園内唯一の宿泊施設が経営破綻により休業状態となっていることから、アドベンチャーツーリズムやインバウンドに対応できる魅力ある観光資源として再生したい！

現状の課題

- ・既存施設の老朽化が問題。
- ・コロナ禍やインバウンドも見据え、今求められる施設に改修をしなければ交流拠点としての役割を担えない。
- ・町民が誇りに思える、自慢できる場所がない。

事業の目的

- ・シラルトロ湖周辺のキャンプ場や遊歩道等を活用した野生生物観察などの自然体験アクティビティーとも連携した形での魅力ある宿泊体験・自然体験を提供し、国立公園らしい上質な滞在環境を創出する！
- ・日常では得られない感動を提供したい！

これまでの取組

- ・隈研吾建築都市設計事務所による**基本設計策定**（令和元年度）
- ・釧路湿原国立公園茅沼地区協議会設置（令和2年度）
- ・国立公園等資源整備事業補助金交付決定（ " ）
- ・隈研吾建築都市設計事務所による**実施設計策定中**（ " ）

標茶町・釧路湿原国立公園茅沼地区観光宿泊施設エリア上質化事業

事業 内容

(イメージパース図)



【ハード面】

- ・既存施設改修や周辺環境の整備
- ・キャンプ場のWifi環境整備
- ・乗馬を想定した遊歩道の改修

【ソフト面】

- ・効果的な誘客のための情報発信
- ・アクティビティの商品開発

成果・目標

- ・上質な滞在環境の創出
- ・多様なアドベンチャーツーリズムの構築



- ・交流・関係人口の増加
- ・環境保護の推進
- ・地域活性化

得られる 成果等

企業様へ求めるもの等

協働によるSDGsの達成

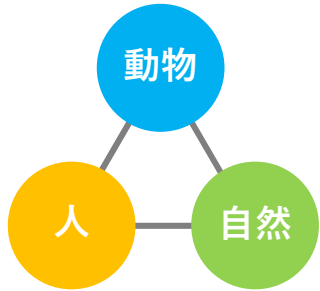
企業のメリット

- ・町webサイト・広報誌等での寄附者のご紹介
- ・SDGsの取組の一つとして（社会貢献(環境保護)PR)

目的

動物たちが、来園者が、スタッフが、自然が、
すべてが「幸せ」でいられる、世界に誇る動物公園を目指しています。

事業理念 **人と動物と自然が、共生する動物公園**
～人と動物が参加する、新しい福祉の形～



● 来園者、スタッフのための
快適な環境構築

● 動物福祉のための
環境エンリッチメント

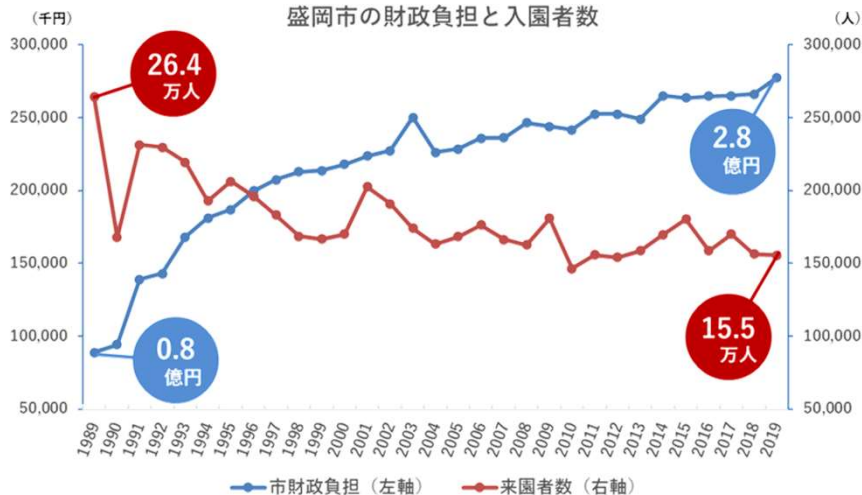
● ランドスケープイマージョン
環境負荷の低減
生物多様性の確保

● ● ● 盛岡市動物公園再生事業の3つの核

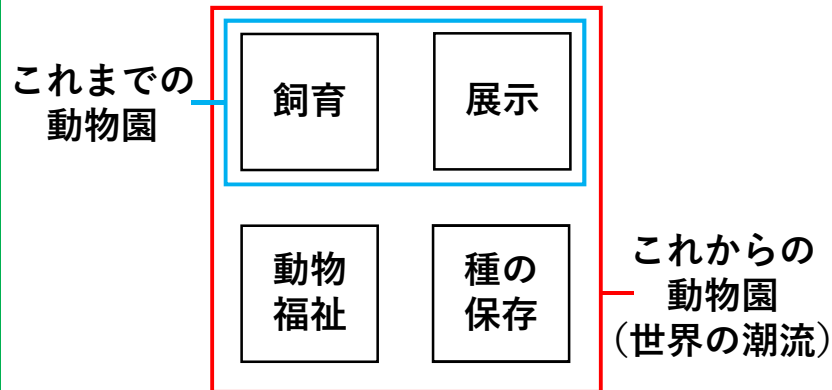
背景・課題

課題① 厳しい財政状況下における財政負担の軽減

課題② 世界の動物園の潮流である

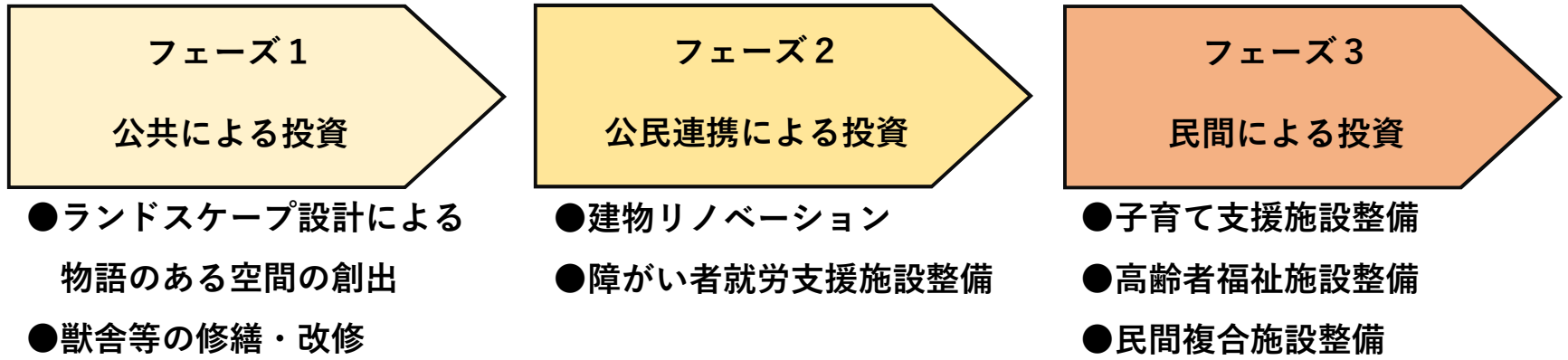


「種の保存」と「動物福祉」への貢献



これまでの取組
事業内容
寄附金の使途

PPPエージェント方式による、世界初の公民連携による動物園（公園）の再生に着手しています。
令和2年度はランドスケープ実施設計（設計者：オンサイト計画設計事務所）が行われました。



動物病院の改築

体現要素
動物 人

動物の診療・診察を更に充実させます。



木質バイオマスボイラーの設置

体現要素
自然

剪定・間伐材等を活用し、園内でのエネルギー循環を目指します。



動物糞尿処理施設の設置

体現要素
自然

輸送に係る化石燃料や廃棄物の排出量を縮小させます。



理念に基づく他施設の改修

体現要素
動物 人 自然

動物公園を更に豊かな空間とするため、施設の改修を行います。

下野市（しもつけし）スポーツツーリズムプロジェクト

背景

歴史的文化財（東の飛鳥）をはじめとする観光スポットや豊かな自然、首都圏への好アクセス、医療福祉に特化した地域性を有しているが、知名度の低さなどにより地域の活性化に至っていない。

現状の課題

観光地としての知名度の低さ
宿泊施設の不足や、スポーツによる観光誘致のノウハウがない。

事業の目的

周遊観光の実施
一般観光客のおもてなし

➔

観光イベントの増加
スポーツとの融合による活性化

これまでの取組

国体競技会場となる大松山運動公園を核とした
スポーツ・観光の拠点づくり
国体機運醸成のためのボランティア収集



事業内容

競技会場への誘致

国体レガシーの創出



地域活性化を実現！



得られる成果等

企業に求めるもの
旅行・観光業の専門知識提供
国体に係る業務の協働運営

企業のメリット
新たなビジネスチャンスの創出
地方ニーズの把握
担当人材のキャリアアップ



目指せラグビー熊谷市

東京都町田市・芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクト

背景

- ・生産年齢人口が減り始めている
- ・町田市立博物館の施設老朽化による展示終了
- ・多摩都市モノレールの延伸事業



現状の課題

- ・中心市街地の賑わいの低下
- ・公園の魅力をも十分に活かしていない
- ・子育て世代に選ばれるまち

事業の目的

- ・公園と美術館の一体的な整備
- ・コンセプトは「パークミュージアム」
- ・中心市街地に新たな賑わいの創出



これまでの取組

- ・ひらかれたプロセス～公園活用アイデアの抽出イベント
- ・市民参加型プロジェクト **Made in Serigaya** (メイドイン芹ヶ谷)
- ・公園、美術館の基本設計



東京都町田市・芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクト

事業 内容

- ・ 公園と美術館の一体的な整備
 - ・ 芹ヶ谷公園
 - ・ (仮称) 国際工芸美術館
- ・ 一体的な管理運営



得られる 成果等

- 成果・目標
- ・ 市民主体の公園活用
 - ・ 市民の文化芸術にふれる機会の増加
 - ・ 公園の来園者増加
- ➡
- ・ 中心市街地活性化
 - ・ えらばれるまち

- 企業に求めるもの
- ・ 公園活用プログラム
 - ・ 整備財源の支援
- 企業のメリット
- ・ 公園での実証実験
 - ・ 商圏人口200万人を活かした新たな展開

新潟県柏崎市 新たなエネルギーのまち『柏崎3.0』

背景

- 1900年代 石油産業のまち（柏崎1.0）
- 1980年代～ 原子力産業のまち（柏崎2.0）
- ★国のエネルギー政策とともに発展

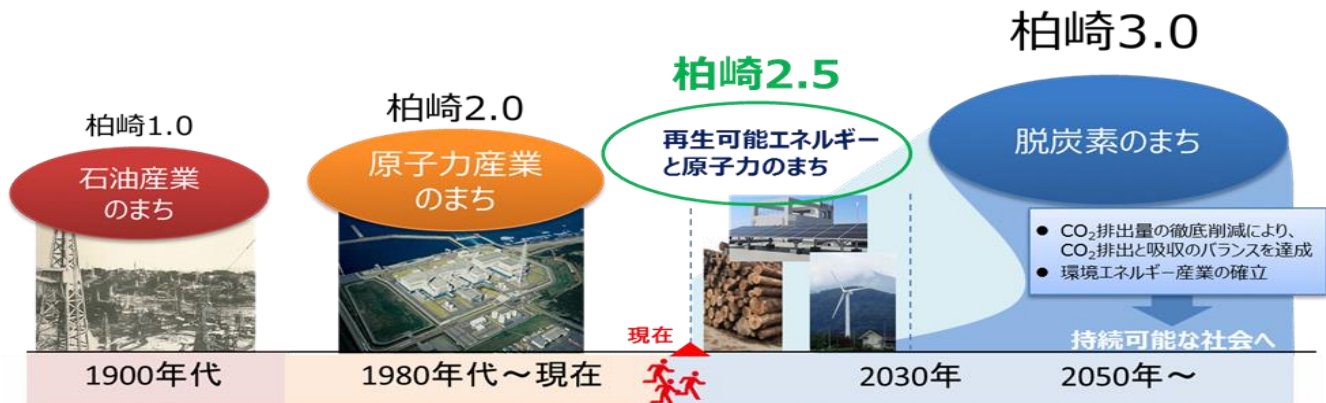
現状の課題

- ・首都圏の電力需要に対するエネルギーの供給
- ・原子力発電との共存（安全技術・廃炉産業の育成）
- ・地球環境にやさしく持続可能な社会の実現

事業の目的

- ・再生可能エネルギーや次世代エネルギーの活用
 - ・環境エネルギー関連産業の育成
- ➡
- ・持続可能な環境にやさしいまち
 - ・環境エネルギー関連産業の発展・高度化

これまでの取組



新潟県柏崎市 新たなエネルギーのまち『柏崎3.0』

事業
内容

地域エネルギー会社の 設立

再生可能エネルギーの
地産地消で
低炭素エネルギーを活用できる
社会づくり



地域エネルギー会社の将来構想イメージ

市内や近隣の再生可能エネルギーの電力を市内で活用（エネルギーの地産地消）



市外大規模電源

メガソーラー 洋上風力

大型蓄電池など

市内外の大規模再生可能エネルギーなどの電力を蓄電池などで整えて関東地方へ送電

エネルギーの拠点化

風力発電

太陽光発電

小水力発電

廃棄物発電

関東地方への電力供給

成果・目標

- ・生活の利便性の維持
- ・エネルギーの効率的な使用
- ・持続可能で豊かな生活



脱炭素のまち（柏崎3.0）

企業に求めるもの

- ・会社設立のための資金提供
- ・将来的な電力供給

企業のメリット

低炭素社会実現に向けた
取組への貢献

得られる
成果等



背景

世界遺産「五箇山の合掌造り集落」

1995 (H7) 年12月、市内2つの合掌造り集落が、岐阜県「白川郷」とともにユネスコ世界遺産に登録。(国内で6番目)



菅沼集落



相倉集落

現状と課題

- **急激な人口減少** ~**周辺人口は20年間で4割減** (H7年2,636人⇒H27年1,619人) ~
(課題) コミュニティ機能の低下 ⇒ 世界遺産維持の危機
- **屋根材「コガヤ」の供給不足** ~**山間傾斜地にある「茅場 (=栽培地)」の荒廃** ~
(課題) コガヤの生産向上に「新しい力」の参画が必要。
- **観光客への対応** ~**外国人観光客の増加** ~
(課題) おもてなし (=ガイド活動) の多言語化。



「茅場」保全の取組が、あらたに世界無形遺産に登録される見通し。

事業の目的

世界遺産「合掌造り集落」を、未来につないでいくために...

- ① **子どもの声**が響き、**安心して住み続けられる** 集落づくり。
- ② 屋根材を自給し**持続可能**な集落づくり。
- ③ 『懐かしくて、新しい』価値観を**世界に発信**。



事業内容

①茅場の造成 (R2年度 : 229万円)

「コガヤ」の自給率100%をめざし、**茅場の造成**に取り組みます。



茅場での作業風景 (刈取り)

②ICT遠隔協働学習の推進 (R2年度 : 961万円)

山間集落の若者たちの子育て不安を解消するため、**ICTを活用した「質の高い教育」**を山間地の子ども達に届け、世界遺産を守っていく人材を育くみます。



ICTで学校間をつないだ協働学習

③観光客受入環境の充実 (R2年度 : 267万円)

コロナ終息後のV字回復をめざし、**AIを活用した観光情報サイト**を導入して、満足度向上をめざします。



地元高校生による観光ガイド

都会は人がつくり、
田舎は神がつくる。



得られる効果

成果 ① 合掌造り家屋の維持・保全

目標 ② 安心して子育てし、住み続けられる集落

③ 観光客受入れ体制の充実

⇒ **持続可能で、誰からも愛される世界遺産へ**

企業様へのお願い

- ・世界遺産を未来につなぐ取組に**企業版ふるさと納税で支援**を！
- ・CSR広報を通じて、「**五箇山の合掌造り集落**」の**PR**を！
- ・世界遺産の保存活動を通じて、社内外に**SDGsの啓発**を！

「世界遺産の保存に貢献する企業」様の取組を、南砺市は広くPRさせていただきます。

4.10 OPEN 長野県立美術館へのご支援・ご協力をお願い

背景

2017年（平成29年）から全面改築を行っている長野県信濃美術館は、来年4月10日 **長野県立美術館**に改称し**全面オープン**！

芸術文化の拠点 県内美術館の中核 観光の拠点



現状の課題

本館では菱田春草、荻原碌山、池田満寿夫など県出身作家の作品、**東山魁夷館**では東山画伯の作品を収蔵（合わせて5千点余り）
⇒これまでの客層は**シニア層**が中心



事業の目的

無料ゾーンの充実～カフェ、ショップ、ライブラリー、屋上広場など

チケットレスで利用できるエリアに、映像作品や触れる美術作品を展示

- ・ **子ども連れ**の増加
- ・ **鑑賞以外の利用者**増加
- ・ **外国人観光客**の増加



これまでの取組

開館に向けオリジナルコンテンツを充実

個人・企業等からの寄付※
・新美術館みんなのアートプロジェクト
・中谷芙二子「霧の彫刻」の制作
※個人724万円余・企業等1,110万円(12.9現在)



新型コロナのため企業セールスが不十分

R3.1.22(金)～1.25(月)銀座NAGANOパネル展
R3.2.21(日)PM長野県立美術館開館直前イベント

予定

4.10 OPEN 長野県立美術館へのご支援・ご協力をお願い

事業内容

鑑賞

学び

交流

成果・目標

得られる成果等

開館後は**オリジナルコンテンツ**を更に充実！
映像機器の更新や**メンテナンス**などに活用！

- ・映像作品を増やす
- ・プロジェクター等の更新
- ・触れる美術作品のメンテナンス など

いつでも
誰でも
気軽に

アートに触れる
ことができる
美術館を実現

パートナーの声
若者の創造や活動
の場にしてほしい



4 質の高い教育をみんなに

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナシップで目標を達成しよう

企業に求めるもの

長野県立美術館の**パートナー**として
各社の強みを生かした応援に期待！

寄付の特典 寄付者銘板、美術館HPに**永久掲載**
※寄付金額により特典が異なります

プラチナパートナー (500万円)
銘板 (特大)、デジタル広告掲載10年間 ほか

ゴールドパートナー (300万円)
銘板 (大)、デジタル広告掲載3年間 ほか

シルバーパートナー (100万円)
銘板 (中)、デジタル広告掲載1年間 ほか

ブロンズパートナー (50万円) 銘板 (小) ほか

※10万円～：県HPに社名を1年間掲載

《参考》

過去最高入館者：45万8千人
※H2：東山魁夷館開館初年度
善光寺参拝者数
通常年 (R1) 627万人
御開帳年 (H27) 1,220万人

背景

絶景に息をのむ茅場「曾爾高原」や漆文化発祥とされる土地柄を有する村だが、人口減少が進む中、固有の伝統文化や農林業が衰退しつつある。



現状の課題

- ・ 曾爾高原はススキ（茅）の植生が悪化しているが、改善のための知見・ノウハウ・人材が不足
- ・ 漆の植栽・育林を進めていくためのノウハウ・人材が不足



事業の目的

「曾爾高原復活プロジェクト」 ➡ 茅と漆のある原風景を村に取り戻す
「山と漆プロジェクト」 日本伝統文化を守り継ぐ・担い手を育てる

これまでの取組

- ・ 曾爾高原の伝統行事の維持、植生復活のための試験実施
- ・ 漆の森の再生に向けた植樹・育林・関係人口の形成
- ・ 知恵・ノウハウを蓄積し、持続可能な仕組みを構築模索



事業
内容

「曾爾高原復活プロジェクト」
「山と漆プロジェクト」

➡ 日本の原風景と技を次世代につなぐ
森づくり・場づくり・人づくり



得られる
成果等

《成果・目標》

- 漆・茅の供給産地の形成
- 曾爾村の漆で奈良県の国宝・重要文化財を修復、茅で重要建造物の屋根を修復するサイクルを構築
- 漆・茅葺きに関係する職人・社会起業人材育成拠点の形成

- ↓
- ・村に共感する関係人口コミュニティの創出
 - ・健康で持続可能な暮らしをデザインする村へ

《企業に求めるもの》

- ・森づくりのノウハウ（植生・育林・保全）
- ・価値づけのノウハウ（利活用研究・商品開発・発信）
- ・関係者のプラットフォーム化

《企業のメリット》

- ・SDGs事業の実証プロジェクトを共創できること、実践による人材育成
- ・自社のノウハウ活用による企業価値の向上（認知度向上・データ集積）



背景

- 平成24年6月 広島県が鞆町の埋立架橋計画を撤回
鞆の歴史的文化遗产の保全活用を目的とした「まちづくり基金」の提唱
- 平成29年11月 鞆が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された
- 平成30年5月 鞆の浦が「瀬戸の夕風が包む国内随一の近世港町」として日本遺産に認定
- 平成31年4月 寄附募集「鞆・一口町方衆」応援プロジェクトを開始

現状の課題

【寄附募集の概要】

目標額	6億円（事務経費を含む）
実績額	1,700万円(R元年度 1,300万円, R2年度 400万円)
募集期間	10年間
使途	<ul style="list-style-type: none"> 鞆の町並みの保存や歴史的な景観保全に係る取組 鞆の伝統文化を継承していくための取組

事業の目的

鞆の歴史的な景観や町並み、鞆に暮らす人々が受け継ぎ守ってきた伝統文化、人々の暮らしが息づく町並みや風情を未来に継承するため、ふるさと納税制度及び企業版ふるさと納税制度を活用し、寄附募集を行うものです。

これまでの取組

【個人への寄附募集の働きかけ】

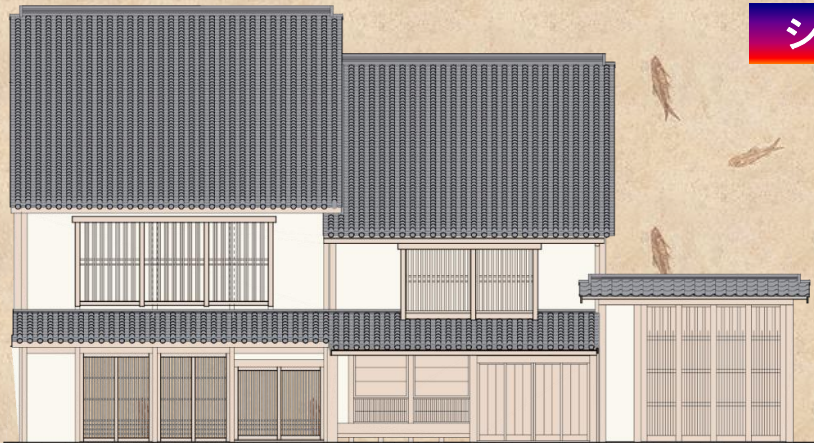
○全国各地の県人会総会等でのPR、フォトコンテストなど鞆ファン拡大に向けた取組。

【法人への寄附募集の働きかけ】

- 福山市内や広島にゆかりのある企業訪問、福山市商工会議所会員3,000企業へのDM
 - 「鞆・一口町方衆」応援パートナー制度の創設→広報協力等、寄附企業へのメリット提供
- 【プロモーション】

・小林克也と宮田文化庁長官との特別対談、「鞆の浦慕情」を歌った演歌歌手の岩佐美咲（元AKB48）の特別PR大使就任等の著名人活用による認知度アップ

■ 鞆の町並みの保存や歴史的な景観保全に係る取組



シンボルプロジェクト第1弾

【「町並み保存拠点施設」の整備】

- 明治前期に建てられた二階建て、切妻造平入、本瓦葺の町家(伝統的建造物)の再築
- 町家の姿を残した修理を行い、鞆の伝統的建造物として公開する。
(2021年度公開予定)

■ 鞆の伝統文化を継承していくための取組

- 鞆の伝統行事に使われる用具の修理・修繕
- 鞆の伝統文化を継承する資料・文献の調査
- 資料のアーカイブ化(記録集の作成)への補助



【お手火神事】



【鞆の浦縛り網漁法】

【町並み保存拠点施設の役割】

- ・ 町並み保存に関する修理・修景の相談窓口
- ・ 日本遺産の情報発信コーナー
- ・ 秋祭り「チョウサイ」の展示コーナー
- ・ 休憩所・トイレ・授乳室 など

【伝統文化の継承】

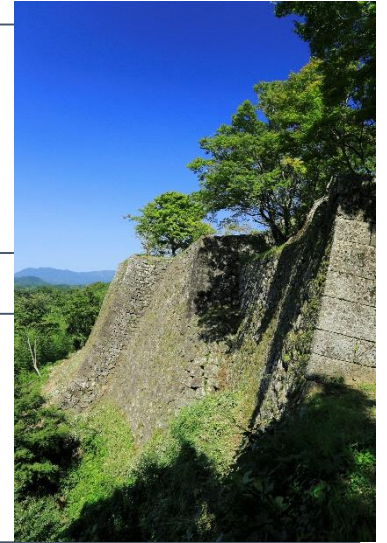
- ・ 無形文化財でもある伝統行事の継承
- ・ 資料-文献調査による新たな鞆の発見
- ・ 「伝統文化」をフックとした交流人口の拡大、地域コミュニティの活性化、鞆町の再生

■ 日本最強の城『岡城』見える化プロジェクト

背景

NHK『あなたも絶対行きたくなる！日本“最強の城”スペシャル』で
竹田市の国指定史跡・岡城跡が“最強の城”に選定！！！！

選定理由は 国内最大規模の「石垣の魅力」



石垣が魅せる「余白の美」

現状の課題

全体で東京ドーム約14個分相当の広大な敷地・・・
竹や雑木に覆われ、その全貌はいまだ隠されている

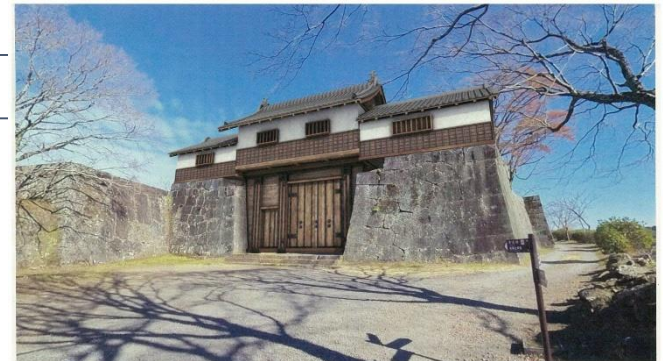
事業の目的

竹や雑木の伐採を集中的・継続的に進め、岡城を**見える化**
史跡の真の魅力「石垣の**美しさ**」を伝えること

これまでの取組

- ☑ 民間企業や地域住民と共同した「岡城清掃の日」
- ☑ AR岡城時空散歩 ガイダンスセンター完成
- ☑ WEBマーケティング、日本山城サミットなど
プロモーション活動

コロナ禍で屋外観光ニーズも高まり、**秋の観光客UP**
さまざまな取り組みの成果が出てきている・・・！！！！



ARでよみがえる在りし日の姿

Bブロック 人材育成・確保

12,	岩手県 紫波町 (人材派遣型)	16,	熊本県 八代市
13,	群馬県 下仁田町	17,	熊本県 天草市 (人材派遣型)
14,	京都府 南山城村 (人材派遣型)	18,	大分県 由布市 (人材派遣型)
15,	熊本県		

子育て支援、少子化対策

19,	愛知県 豊明市
20,	滋賀県 東近江市
21,	京都府
22,	岡山県 岡山市

背景

人口 7,058人 高齢化率 49%

↳ 人口減少、少子高齢化が進み、地域活性化に苦勞



現状の課題

- 若年層が就学や就労などにより町外に転出
- 進学等で町を離れた若者が戻らない

↳ 農林業、食品、建設等地場産業の**担い手不足**

持続可能な活力ある町を実現したい

事業の目的

若者の町外流出を抑制するとともに、進学等で町外流失した人材のUターン就職につなげ、地場産業における優秀な人材の確保と子育て世代の流入増加を図りたい！

➡ **ねぎとこんにやく下仁田奨学ローン 開発**

これまでの取組

H28年度 地域金融機関との「包括連携協定書」を締結
地域金融機関との「奨学金に関する協定書」を締結
「ねぎとこんにやく下仁田奨学金事業」地域再生計画認定

H29年度 ねぎとこんにやく下仁田奨学金制度運用

R元年度 「企業版ふるさと納税」大臣表彰受賞



事業内容

〈ねぎとこんにやく下仁田奨学金制度〉

ねぎとこんにやく下仁田奨学ローン返済相当額を町が補助！

貸付額：高校生 30,000円/月
大学生等 50,000円/月

在校生（住所要件なし） ➡ **利息相当額**を補助
卒業生（住所要件あり） ➡ **元利金相当額**を補助

補助財源として・・・**ねぎとこんにやく下仁田奨学金基金**を設置

企業版ふるさと納税・ふるさと納税を活用させていただき
持続的な制度として運用しています！



<p>4 質の高い教育をみんなに</p> 	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> 
--	---	---

得られる成果等

〈成果・目標〉

- ◆地場産業への優秀な人材確保
- ◆若者の町外流出を抑制
- ◆子育て世代の流入増加

寄付活用事業による町内定着人数（R2～R6）

45人を目指します！

〈実績〉

H29～R元年度卒業生
29人のうち**17人**が町内在住

定住率**59%**

〈企業のメリット〉

- ◆企業のイメージ・認知度up
- ◆SDGsへの取組みなどのPR効果
- ◆新たなパートナーシップの構築

**下仁田町の若者を応援して下さる
企業を募集しています！**



背景

- 主要産業は、農林業の一次産業
- 日本三大銘茶の1つである宇治茶の主産地
- 若者世代の転出超過により地域の過疎化が進行



現状の課題

- 若年層の転出や高齢化による地域産業の衰退・後継者不足
- 誰もが安心して暮らせる生活環境の整備
- withコロナ時代を意識した交流・関係人口の創出と拡大
- SDGs・ESGを意識した取組み



事業の目的



豊かな自然環境と地域資源を活かし、誰もが安心して暮らしたいと思える活力ある南山城村を実現！

これまでの取組

- ふれあい交流拠点施設「道の駅 お茶の京都みなみやましる村」の創設
- 地域の活性化を狙った新たな取組みとして観光の事業化に着手
- 村産品詰め合わせセットをPR商品とした魅力発信・新たな販路開拓
- 過疎地型新モビリティサービスの実証・事業化への推進





事業
内容

☆ 村に安定した雇用を創出する



JR駅周辺再開発、特産品開発、スマート農業、6次産業化

☆ 村へ新しい人の流れをつくる



観光スポット環境整備、移住定住の促進、文化遺産の保全

☆ 若い世代が希望をもてる村をつくる



出産・子育て支援、子どもの医療費・通学費の助成、学校教育の充実

☆ 時代に合った地域形成と安心して暮らせる村をつくる



新モビリティサービスの推進、IoT/ICTの活用、複合型施設の整備、水道未普及地域の解消

南山城村が取り組みたい事



企業に求めるもの

- 村が実施するプロジェクトへの支援
- 専門的知識・ノウハウを有する人材の派遣

企業のメリット

- SDGsへの取り組みや地方貢献などのPR効果
- 実証実験の場の確保
- 新たなパートナーシップの構築

一緒に南山城村を盛り上げてくださる
企業様を募集しています！！



ぜひ一度
お話しさせて
ください！



得られる
成果等

熊本県 「くまもとではたらく」若者の県内定着促進プロジェクト

背景

県内外の若者に対し、県内企業の魅力が十分に伝わっていない

現状の課題

課題

- ・熊本地震、新型コロナ、豪雨災害とトリプルパンチに見舞われている
- ・就職時等における若者の県外流出・県内企業の人手不足が深刻化

事業の目的

目的

- ・県内企業の魅力発信
- ・若者の県内就職促進

事業内容

○U I J ターン就職支援センターを熊本・東京・大阪・福岡に設置

→ 県外の若者に対し、熊本県への就職を支援

○働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業を「ブライト企業」として認定し、その魅力を発信

→ ・県内企業の労働環境や従業員の処遇の向上を促進
・県内企業への就職を考える若者へのPR効果の向上



©2010 熊本県くまモン

得られる成果等

【成果・目標】

- ・U I J ターン就職件数の増加
- ・魅力ある企業の増加、認知



- ・若者の県内就職率向上
- ・企業の人材確保・定着実現

【企業に求めるもの等】

- ・U I J ターン就職支援での協働
- ・ブライト企業認定制度での協働

【企業のメリット】

- ・就職希望者の増加

熊本県・阿蘇草原の再生加速化プロジェクト

背景

現状の課題

事業の目的

事業内容

得られる成果等

◆現状と課題

国内最大規模を誇る阿蘇の草原（約22,000ha）
→草原の維持・管理に必要な担い手不足等が深刻化

◆事業の目的

くまもとの「宝」である阿蘇の草原を次世代に継承していく



世界に誇る雄大な阿蘇の草原

①：阿蘇草原応援企業サポーター認証や草原体験型ボランティアツアーによる新たな担い手確保

②：ICT等を活用した野焼きの負担軽減に向けた取組み



草原維持に必要な野焼きの様子 ボランティアによる野焼き支援

◆成果

・環境保全（水源涵養、温暖化防止等）
・阿蘇地域の観光や農畜産業の発展



◆企業に求めるもの等

- ・野焼き支援ボランティアへの参加
- ・草原維持のための資金提供（企業版ふるさと納税や募金）

◆企業のメリット

- ・阿蘇草原応援企業サポーターとして認証されることにより、県HPや新聞広告等に企業名が掲載される。



背景

地元の若者が進学、就職で流出!!

⇒ 戻りたいと思っても、自分の経験・知識・スキルを活かせる仕事がない…

※ ハローワーク八代の有効求人倍率(2020年8月 全業種0.99、事務的職業0.52)

※ 求人が多いのは、福祉関連、サービス関連、医療関連、生産工程、ドライバーなど



現状の課題

企業誘致の対象業種を変更!!

以前は、主に製造業や運輸業 ⇒ 採用は高卒中心。しかも、すでに立地している企業と人材の取合いに…
現在は、主にIT関連 ⇒ 大卒の採用も多く、進学で流出した人材が戻って働ける場所になり得る。

しかし!!

求職者が応募しても、採用されない…、ハードルが高くて応募もできない…



事業の目的

そこで!! ⇒ 地域人材のITリテラシー向上やスキルアップに取り組もう!!

さらに!! ⇒ 地域や行政、企業のDX化にも取り組もう!!



これまでの取組

■ プログラミングスクール&コワーキングスペースの運営を行う企業を誘致

⇒ 今年2月からスタート、1期(2ヶ月)のスクール生×3期で約80名を輩出。

■ 10月からは、土日(各4時間)×8週間の市職員向けシビックテック研修を実施中

■ 総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業にも採択!!

⇒ ICT関連セミナー、都市部の副業人材活用セミナー、やる気のある他都市との交流などを実施中



事業内容

- プログラミングスクール及びコワーキングスペースの運営等を通して、地域人材のITリテラシー・ITスキルの向上を図る。
- 地域企業の若手経営者が新事業を考え、事業の実施を後押しする「やつしろ未来創造塾」を開催。
- 都市部の副業人材や他都市のやる気ある若手経営者等と連携し、地域でのイノベーションを促進。
- 市職員自らが、ITリテラシー向上に取組み、地域のDX化を後押しする。



得られる成果等

成果・目標

- プログラミングスクール
3クール開催/年
※ 2ヶ月(週5日×3時間)
修了生60人/年
- 「やつしろ未来創造塾」
塾生10人/年
ビジネスプラン実現：3件/年



企業に求めるもの

- 新技術導入等に関する共同研究
- 地域人材の採用

企業のメリット

- 一緒に研究に取り組んだ人材を採用できる可能性がある。
- 市が全面的にとり、地域の教育機関や住民等との調整に協力。

熊本県天草市・「未来人材育成・就職促進事業」及び、 「天草宝島物産公社運営事業」

背景

主要産業は、農林水産業の一次産業及び観光業。
移住施策は県内トップの実績（年間100人前後）を誇るが、地元定着については、若者世代の転出超過が大きく、地域の過疎化が進んでいる。



現状の課題

- 大学等がないこと、ニーズに合う働く場がないことによる若者世代の転出超過。
→ 1次産業をはじめ『**地域経済の担い手**』及び、『**まちづくり人材**』の不足。
- 少量多品目、消費地からの距離（物流）、営業力・**人材不足**、デザイン力、**IT人材不足**
→ **都市部への販路開拓が難しい**（B級品の販路も含め）。

事業の目的

- 天草の未来を担う**人材を確保**し、活気のある持続可能な街を目指す。
- 天草の製品の**都市部への販路を開拓**し、生産者の所得増加に繋げる。



これまでの取組

- ・雇用の場を維持創出するために、**天草市起業創業・中小企業支援センターAma-biZ**を設置。
- ・少量多品種の産品を全国へ発信するため地域商社として**天草宝島物産公社**を設置。
- ・移住定住促進を図るため、**移住定住サポートセンター**を設置。
- ・地元就職足の為、市内において**合同企業就職説明会**を開催（年2回）
- ・起業の促進、地元愛醸成のため、京大と連携し、**天草宝島起業塾（高校生・一般）**を開催。

事業
内容

《未来人材育成・就職促進事業》

1. 天草の就職情報の発信、地元新卒者・若者のUJIターン就職支援

市内高校生及び天草出身の大学生や既就職者に対し、地元の就職情報を動画等新たな手法で発信するとともに、市内及び流出人数の多い熊本市で合同就職面談会を開催する届けることで、Uターン就職の促進を図る。

2. 若者の働きたい場の創出・スキルアップ環境の整備（デジタル人材育成）

若者や女性等が、天草にしながらIT等を活用し、働き稼げる環境を整備するため、クラウドワーキング、WEBデザイン、グラフィックデザイン、動画製作、プログラミングスキル等の育成講座を開催。

《天草宝島物産公社運営事業》

1. 地域特産品の取引・受発注窓口の一元化（現在：市内約200事業者、約1,000品目登録）

市内の小規模事業者の受発注窓口を物産公社に一元化することで、取引先も一括して多品目を注文でき、生産者の負担軽減も図れる。販路開拓にも繋がる。

2. 地域物産品の紹介、宣伝及び販路開拓

都市部へのバイヤーへの営業、バイヤーの現地視察等の対応を日常的に行うとともに、年に2度、天草の生産者が一堂に会した「オール天草∞大商談会」を開催し、バイヤーとマッチングする。



得られる
成果等

★成果・目標

- ・若者の地元就職率向上
 - ・変化をもたらすクリエイターを育成
 - ・地場企業の付加価値、競争力向上
 - ・天草の生産者の所得向上（縁結び）
-
- ・天草の地域間競争力向上
 - ・働き手の確保
 - ・市民所得の向上
(目指せ平均所得300万円)
 - ・持続可能な街づくり

★企業に求めるもの等

- ・天草に変化をもたらす人材、資金、IT化促進のための人材の提供
- ・天草でプレイヤーとして活動（立地）。
- ・企業のノウハウと天草の資源や強みの融合、弱みの改善につながる連携。
- ・製品の都市部への販路・販路開拓人材

★企業のメリット

- ・実証実験の場の確保
- ・地方を応援している企業というPR
- ・課題先進地「天草」で日本の課題を先取

大分県由布市 地域資源利活用による持続可能な農村づくり

背景

若者の農業ばなれ
⇒ 農村の過疎化



現状の課題

大分県有数の観光地「湯布院」を有しているが、同市内の他の地域との連携ができていないために、農村地域の交流人口の増加にはつながっていない。



事業の目的

『持続可能な農村づくり』 ⇒ 「農家民泊」の推進

- ・ 1次産業をはじめ後継者不足の解消！
- ・ 都市圏からの移住希望の方の夢実現！
- ・ 住み続けたいと思える魅力あるまちづくり

パックラフト

これまでの取組

地域資源を活用した新たな体験プログラムとして、まだ日本でもなじみが薄いウォーターアクティビティツール『パックラフト』が楽しめるコースを開発

⇒ 「湯布院」 + 「農泊」 + 「由布川峡谷」を繋げるツールとして期待！

事業内容

「バックラフト」拠点整備事業 由布川峡谷ガイド人材育成事業

- ⇒ 若者の活躍する場所を創出
- ⇒ 農観連携の『滞在型・循環型』地域づくり



得られる成果等

成果・目標

地域外の人を呼び込む



交流人口の増加



地域経済に貢献



「持続可能な農村づくり」の実現



企業に求めるもの等

- ① 拠点整備・人材育成・運営財源の支援
- ② 業界団体へのPR、販路拡大支援
- ③ 社員研修や保養所として「農泊」を利用
- ④ 新規ビジネスの提案や将来的な協働
- ⑤ 由布川峡谷の環境保全活動支援

企業のメリット

- ① 環境保全活動への取り組みをPRできる
- ② 新たな社員教育の場として湯布院を擁する由布市と継続的な関係構築ができる
- ③ ワークションの場として由布市を活用し非日常の環境下で自由に新しい発想を生み出すことが可能になる

背景

【2つの小学校を統合して1つの新設校に】

1つの小学校が空き施設に！



現状の課題

【多様な人材が存在する一方…】

- ◆まちづくりを推進する
- ◆市民・団体が活動する
- ◆多様な人材がつながる

「拠点」がない！



事業の目的

- ◆既存の施設を活かした交流拠点
- ◆活動の場、学びの場、若者との交流促進、子育て支援、高齢者の生きがいづくり

➡ **「交流・まなび・あそび・子育て支援拠点」**

これまでの取組

【R4.4月オープンを目指して】

基本方針

(H30)



基本設計

(R1)



実施設計

(R2)



改修工事

(R3)

事業
内容

- ◆子育て支援拠点（児童発達支援センター、子育て支援センター、屋内あそび場）
- ◆多世代交流拠点（市民交流センター、みんなのテラス、噴水広場）
- ◆生涯学習拠点（歴史民俗資料室、学習室、活動室、調理室）などを整備

様々な人や団体を拠点に集め
交流の輪をつなげることで
笑顔かがやく空間をデザインする

得られる
成果等

【成果】

- ◆子育てしやすい環境ができる
- ◆市民活動団体が育まれる
- ◆若者がまちづくりに参画するきっかけができる
- ◆多世代・多文化の交流により新たな意識が醸成される

【目標】

- ◆連携により新たな価値を創る
- ◆公共空間の質を向上する
- ◆未来を志向する

【企業に求めるもの】

- ◆施設整備・運営、その他未来のまちづくりに取組む活動資金の支援
- ◆まちづくりについて共に考え実践するパートナー・プレーヤー

【企業のメリット】

- ◆新たなパートナーシップの構築
- ◆SDGsへの取組みなどのPR効果
- ◆地域資源を活かした新事業の展開

滋賀県 東近江市 里山をいかした子育て環境づくり、人づくり事業

背景

- ・ 東近江市は、日本の1,000分の1モデル
- ・ 総合戦略には「戦略を実現するためのストーリー」がある
- ・ そのひとつ「**自然を最大限いかした子育て環境づくり**」を！



事業の目的

- ・ 自然体験活動を通じて、**自ら考え、行動する子どもを育成**
- ・ 自然環境をいかした**保育の担い手の確保**
- ・ **子どもが地域に愛着を持つ**ことにより、人口流出を抑制
- ・ **子育て世代の定着や移入を促進**

これまでの取組

- ・ **園の身近な自然**に園児と出かけ、**自然の楽しさを伝えながら子どもを育成するスキル**を有する市職員が、本市独自の「**里山保育**」を実施（H27年度～）
- ・ **どの園でも実施できる**ことがメリット
- ・ 市内全27園、5歳児約1,000人がいる中、**2割の園児**まで拡大



現状の課題

- ・ スキルを有する職員が少なく、**さらなる拡大が困難**
- ・ **里山保育は、子どもや市にとって重要**と考えてくれる市民が、自然環境をいかした子どもの育成に**関わりたい**と思っているが、**スキルがない**

滋賀県 東近江市 里山をいかした子育て環境づくり、人づくり事業

事業内容

- ・ 思いを持つ市民が「東近江さとやまNannies」結成済
- ・ 同団体にスキルを伝え、指導者育成の仕組みを構築
- ・ 今年度より、スキルの受け渡しをスタートしたが、軌道にのせていくことが肝要
- ・ **本事業により、里山保育の情報発信を強化**
- ・ **仕組みを継続的なものとし、団体の活動を支援**



得られる成果等

成果・目標

- ・ R3年度3割、R6年度5割、R10年度10割の園児に里山保育を実施
- ・ 指導者を最低18人育成
- ・ 同団体が、自然環境をいかした収益事業を実施
- ・ 子どもが動くと地域も動く。里山保育を通じて人と自然との関わりを取り戻す

企業様に求めるもの

- ・ 本市の里山保育の発信
- ・ 市民団体育成のための支援

企業様のメリット

- ・ 市民や行政との直接的つながり
- ・ 社員様やご家族の自然体験
- ・ すでに動き始めている事業のため、実現性が高い

近江鉄道活用促進事業や木地師・ガリ版の磨き上げ事業など、応援いただきたい取組が多数あります


背景

- ・ 仕事がない、利便性が悪い、子育てしにくいなどの理由から、就職・結婚・住居購入などの人生の転機で若者が流出している
- ・ 若者の流出や出生数の減少により、まちの中心市街地が交流の拠点としての機能を失っている

現状の課題

- ・ 「若者の流出→中心市街地の衰退→若者の流出」の悪循環が発生している地域が多く見られる
- ・ まちの機能が中核的なエリアのみで維持できなくなっている
- ・ 子育て世帯が住みやすいまちづくりの取組は行政のみでは限界がある

事業の目的

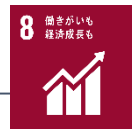
- ・ まちの核づくりと機能の再構築
 - ・ 住環境の満足度を高める
 - ・ 地域内でのワーク・ライフ・バランスの両立
- 
- ・ 若者の地域への定着促進
 - ・ 人口の社会減の抑制

これまでの取組

- ・ 子育て支援拠点の設立、公園の設置
- ・ 中心市街地活性化
- ・ 広域DMOによる地域での仕事づくり

など





事業内容

- ◆各市町村が実施する子育てにやさしいまちづくり（核づくり）を支援
- ◆地域課題を解決する関係人口創出のための都市圏企業等とのマッチング
- ◆テレワークの推進等により地域で仕事ができる環境の整備



得られる成果等

成果・目標

子育て世帯が住みやすいまち
（誰もが住みやすいまち）を
各地域で展開



- ・地域における若者定着の促進
- ・地域の活性化
- ・人口の社会減の抑制

企業に求めるもの

- ・まちづくりについて共に考え、実践するパートナー
- ・CSR、企業活動とまちづくりの両立の模索
- ・企業版ふるさと納税による寄附

企業のメリット

- ・新たなパートナーシップの構築
- ・新たなビジネス展開のきっかけ
- ・SDGsの取組などのPR

岡山市 未来へ躍動する桃太郎のまち岡山創生プロジェクト

背景

岡山市は、中四国の広域交通の**クロスポイントに位置する拠点都市**であり、**災害が少なく**温暖で恵まれた環境の「住みやすさ」が都市の魅力です。

人口減少社会において、労働力の減少や消費需要の減少等による経済規模の縮小、過疎化の進行、地域コミュニティの衰退等の課題に対応するため、**社会減（転出超過）対策**と**自然減（出生率低下）対策**を求められています。

現状の課題

- 関係人口の創出・拡大
- 若者の地元定着の促進
- 少子化の抑制

事業の目的

**持続可能な社会を目指し
人口減少の抑制を実現！**

- 歴史・文化を活かして観光誘客を促進する。
- 新しいひとの流れをつくる。
- 地域での子どもの自由な遊び場を構築し、心豊かな子どもを育てる。

これまでの取組

- ① 「桃太郎のまち岡山」 創造発信事業
- ② 学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト
- ③ 「子どもの声があふれる岡山」 推進プロジェクト

岡山市 未来へ躍動する桃太郎のまち岡山創生プロジェクト

事業内容

①「桃太郎のまち岡山」創造発信事業

- ・桃太郎電鉄とタイアップしたオンライン型謎解きゲーム
- ・岡山市PR動画の制作・配信
- ・音楽祭やマルシェの開催
- ・岡山駅周辺で回遊イベント 等



②学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト

大学生等による以下の活動を支援します。

- ・地域課題の解決や地域活性化への活動
- ・起業へのチャレンジ等に取り組む活動



③「子どもの声があふれる岡山」推進プロジェクト

- ・プレーリーダー養成講座の開催
- ・プレーパーク（※）の開催

※地域の大人がプレーリーダーとして見守り、子どもたちが自然の中で自由にのびのびと遊べる場



◆企業に求めるもの

企業様のご寄附で、岡山市の地方創生プロジェクトを応援してください！

◆企業のメリット

- ・広報紙、イベントチラシ、岡山駅や庁舎内のデジタルサイネージ等で企業名をPR
- ・SDGsの目標達成に寄与

得られる成果等

Cブロック 移住、定住

23, 新潟県見附市

24, 福井県（人材派遣型）

25, 岡山県 西粟倉村
（人材派遣型）

まちづくり

26, 北海道 登別市

27, 北海道 猿払村

28, 大阪府

29, 兵庫県 加西市

環境保全

30, 高知県 梶原町

背景

全国の自治体が抱える課題（超少子高齢・人口減少・社会保障費増加）

➡ **見附市も同じ** ➡ H14から「健康施策」をまちづくりの中心に
人々が健康で、かつ生きがいをもち、安心安全で豊かな
生活を送れる「**健幸 = ウェルネス**」なまちへ

<直近10年>

人口：4.2万人 ➡ **4万人**

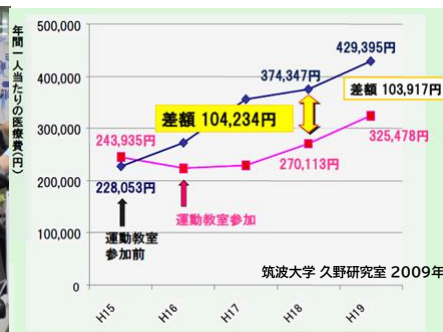
高齢化率：25.7% ➡ **32.3%**

健康施策を推進する中で見えてきたこと・・・

健康行動の無関心層

➡ **約7割** 

無関心層の行動を変える社会技術が必要・・・



現状の
課題

事業の
目的

人生100年時代に向けた市民の健康づくりを支援

健康寿命が伸びる

- ・高齢者が健康で元気
- ・増加する社会保障関連経費の抑制

持続可能なまちづくりに繋がる!!

- ➡生涯現役！活躍できる高齢世代！
- ➡持続可能な都市経営！

令和元年度 SDGs未来都市「**自治体SDGsモデル事業**」に選定

H14：「健康運動教室」を開始

H23：「見附市健幸基本条例」「見附市歩こう条例」を制定

H25：「健幸づくり推進計画」を策定

H26～28・・・「健幸ポイント」社会実験を実施

これまでの「歩いて暮らせるまちづくり」の
実現を目指した取り組みが、SDGsの
達成に向けて**全国の自治体のモデル**
として認められました

これまでの
取組

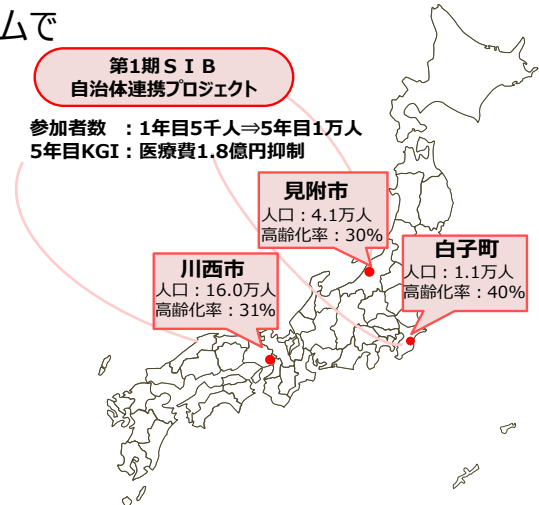
全国初 3市町飛び地自治体連携で健幸都市の実現を目指す

- ・小規模自治体単独では実装できなかった、ICTを活用した社会技術を
3市町（新潟県見附市・兵庫県川西市・千葉県白子町）連携することで実現
- ・「自治体」×「筑波大学」×「民間企業合同会社」の産官学連携チームで
プロジェクトを実施



第1期SIB
自治体連携プロジェクト

参加者数：1年目5千人⇒5年目1万人
5年目KGI：医療費1.8億円抑制



事業
内容

1 健康無関心層の行動を変える

「健幸ポイント」プログラムの実施

2 筑波大学研究成果を踏まえた

運動と食事の個別運動プログラムを提供

3 成果連動型委託契約により、

民間ノウハウを生かした質の高いサービスを提供

多数の住民の行動変容で
市民の健康度の向上!!



生活習慣病や運動器疾患の発症リスクが軽減

自治体財政の医療費・
介護給付費を抑制!!



平成30年度の事業開始から5年後に
3市町合計1.8億円の医療費抑制を目標

企業様のメリット

- ・寄付を通じた**事業協働の実績に!**
- ・SDGsゴール設定事業参画による**企業SDGs活動の実績に!**

企業様に求めること

- ・まちづくりへのご支援
- ・SDGs/CSVパートナー企業としての地域への参画

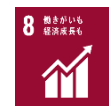
得られる
成果等

福井県 人が人を呼ぶ 移住・定住プロジェクト

あらかじめ、
幸せだったらいいな。

幸せ度
いちばん
福井県

人材派遣による協働も！



ともに、持続可能な開発目標（SDGs）推進

背景

福井県は概ね転出超過（社会減）が続く
2015年から3年連続で社会減が改善したが、2018年から転出者数が増加し、転出超過数も2年連続拡大

現状の課題

- ・ 就業や生活スタイルなど多様化するニーズへのマッチング手法のノウハウ
- ・ 地方兼業・副業、ワーケーションなど新たな受入環境づくり

事業の目的

- ・ 学生の県内就職促進
- ・ 福井県への移住の拡大



これまでの取組

- ・ インターンシップ、移住に関するセミナー・フェアの開催
- ・ 移住体験、仕事や住まいの相談、移住支援金
- ・ Uターンセンター（福井・東京・大阪・名古屋に加え、京都）など

人材派遣による協働も！

事業 内容

- ・ 県内外学生と県内企業の接点拡大
- ・ 関西からの移住促進体制強化
- ・ 都市部への多様な就業のマッチング促進
- ・ 福井との関わりづくり



得られる 成果等

成果・目標

- ・ 福井への移住
- ・ 新ふくい人（社会人Uターン者）増加
- ・ 学生等の県内定着の増



社会増の実現
にぎわい・活力創出

企業に求めるもの

- ・ 地方創生、移住・定住に関するノウハウの提供
- ・ 人材派遣による協働

企業のメリット

- ・ 行政との連携手法等拡大
- ・ 新幹線開業により賑わいが期待される福井との関わり



西粟倉村・村をまるごと活用したモデル地域づくり事業

背景

世の中には様々なテクノロジー（技術・手法）が日々生まれ、そして進歩しているが、そのテクノロジーが地方（特に中山間地域や過疎地域）に行き届くには時間差が生じてしまっている。

現状の課題

その時間差によりテクノロジーの恩恵を率先して受けやすい地域とそうでない地域とでは“生活の質”に差がついてしまうとも言えなくはない。
導入することはもとより、ただテクノロジーの活用だけでなく“ローカライズ”することで、より一層地方での課題解決に資することができるが・・・
その**人脈**や**ノウハウ**がない。

事業の目的

村をまるごと実証実験のフィールドとし、村の課題をテクノロジーを用いて解決する。**課題と人・企業・テクノロジーをマッチングし課題解決への実証研究を行う。**
その検証結果を村の施策へ活かす！！



これまでの取組

実証実験の中心となる組織「一般財団法人西粟倉むらまるごと研究所」を村と民間共同により立ち上げ、拠点の整備を開始した。村と共同研究協定を締結した。
課題の見える化・見えない課題の見える化を行うため、村のあらゆる情報をオープンデータ化しデータを有効活用できるプラットフォームを構築するため上記組織を筆頭に民間企業とコンソーシアムを形成した。さらに行政内においてオープンデータ化を始めとする情報政策を加速させるため、最高情報責任者（CIO）として一般財団法人コードフォーアジア代表 関氏を抜擢し、内部から改革を始めているところである。

西粟倉村・村をまるごと活用したモデル地域づくり事業

事業内容

1. 研究プラットフォーム構築事業（共創環境の創造）

実証研究・研修・共創拠点となる施設や居住環境の整備。
IT・ICT・プログラミング教育コミュニティの形成。



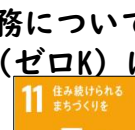
2. オープンデータ活用プラットフォーム開発事業（情報の可視化・2次利用）

オープンデータ化だけに留めるのではなく、そのデータをより分かり易く見える化（ビジュアル化）し、より活用しやすいプラットフォームを構築する。



3. 先端技術による3K課題解決実証事業（環境の改善・働きがい・生きがい）

「きつい」「きたない」「危険」いわゆる3Kと呼ばれる職種や業務について（土木・建築・農業・林業・介護等）、テクノロジーを活用しOK（ゼロK）にし肉体的にも精神的にもOK（オッケー）な状態をつくりだす。



4. 次世代型モビリティ実証事業（交通）

モビリティセンターを整備し、新しいモビリティの在り方を検証し、その検証結果を元に次世代型の地域内循環・地産地消モビリティの開発を行う



5. 移住定住促進のための住宅長寿命化（ZEH化）事業（住まい・省エネ・技術向上）

住居のZEH化による熱効率の向上・省エネルギー化。
地元企業等でも施工可能なZEH化技術の共有およびパッケージ化。



企業のメリット

- ・多種多様な人・企業との出会い・共創
- ・人口1,500人という結果が見えやすいフィールドで行政バックアップの下で現場での自社技術の実証研究ができる。
- ・検証結果が芳しくなくても行政としてはそれ自体が一つの成果であるため失敗を恐れなくてもよい。

企業に求めるもの

- ・「地方から変えてやる！」という熱意
- ・共に創っていくという共創心
- ・自社技術に対する誇り
- ・ふるさと納税をきっかけに自分事に

成果

- ・中山間・過疎地域におけるテクノロジー利用の最先端モデル

得られる成果等

背景

登別市は、全国有数の登別温泉・カルルス温泉を有しており、観光客入込みが北海道上位となっているが、人口減少や少子高齢化が進み、産業の活性化に繋がらず地域活性化に苦勞している。



現状の課題

- (1) 1人当たりの地方税の負担増加
- (2) 基盤施設維持管理費の増大の可能性
- (3) 小・中学校の減少の可能性
- (4) 地域産業の担い手の減少



事業の目的

「このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あるまち」の実現。



人口減少のスピードを鈍化させ上昇させる。

これまでの取組

- ア 子どもを生き育てやすいまちづくり
- イ 安心して老いを迎えることができるまちづくり
- ウ 各産業が元気に展開されるまちづくり
- エ 観光地としての魅力を高め選択されるまちづくり
- オ 移住・定住・応援したいまちづくり



事業内容

① 登別市情報発信拠点施設整備事業

➡ J R 登別駅前登別のまちの魅力や地域の観光資源等を広く情報発信する拠点施設の整備

② デンマーク友好都市中学生派遣交流事業

➡ 中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、外国生活の体験、同世代の外国人生徒との交流等を図る



登別駅前



ファボー・ミッドフュン市役所前

- 8 働きがいも 経済成長も
- 9 健康と長寿生活の 実現につなぐ
- 10 人や国の不平等 をなくそう
- 4 質の高い教育を みんなに
- 10 人や国の不平等 をなくそう
- 17 パートナシップで 目標を達成しよう

成果・目標

① 観光客の呼び込み、市民と観光客の交流

➡ 登別市観光客入込数の増

② 生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進

➡ 海外に興味を持つ生徒の増

企業メリット

- ・ 社会的課題の解決の一助
- ・ 観光地との繋がりづくり
- ・ 企業のイメージアップ

得られる成果等

- ・ 地域経済や地域での暮らしを活性化
- ・ 交流人口・関係人口の増加
- ・ 移住・定住の増加



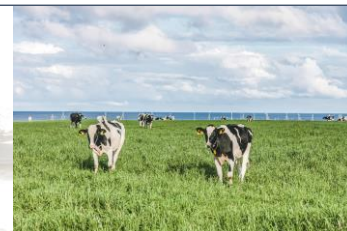
「地獄の谷の鬼花火」 「第24回ふるさとイベント大賞」を受賞

北海道猿払村 新産業創造プロジェクト

背景

【漁業と酪農の2大基幹産業を有しながらも】

人口がゆるやかに減少している



現状の課題

【就労先の選択肢が少ない】

進学で村を離れた若者が戻らない

移住を希望される方の魅力的な受け皿が少ない



事業の目的

【新規就農者・企業誘致を目指して】

施設園芸の猿払モデルを構築する



これまでの取組

17年 地方版IoT推進ラボに選定（経済産業省）

19年 猿払村IoT推進構想策定



北海道猿払村 新産業創造プロジェクト

事業
内容

- ◆施設園芸調査研究事業
施設整備、野菜・イチゴ等の栽培
- ◆食と健康のプロジェクト
村民の健康を食から向上
- ◆既存産業との連携
新商品開発、エネルギー対策等



- ◆持続可能な
活力ある村の実現

成果・目標

- ◆施設園芸栽培システムの確立
- ◆村民の健康への展開
- ◆村特産品の新商品開発
- ◆企業・新規就農者誘致
- ◆村の保有する資源の利活用

企業に求めるもの

- ◆新産業事業化に向けて協働マーケティング、産品開発
新・省エネルギー対策など

企業のメリット

- ◆新たなパートナーシップの構築
- ◆SDGsへの取組みなどのPR効果
- ◆地域資源を活かした新事業の展開

得られる
成果等



背景

- 都市魅力の強化
- 内外からの集客力の強化
 - 交流人口の増加
 - 定住魅力の向上

現状の課題

広域的なサイクルルートの連携が不十分であるため、回遊性の向上による都市空間の創造につながらず、各所が有する地域資源をつなげ、価値を高めることができていない。

事業の目的

市町村や府県域を超えた広域連携により、まちのにぎわい・都市魅力を高めるための取組みを推進。

これまでの取組

- 広域連携型まちづくりの手法として、2018年度から2020年度まで社会実験を実施。
- 2018年度：大阪南部
 - 2019年度：大阪北部
 - 2020年度：大阪東部

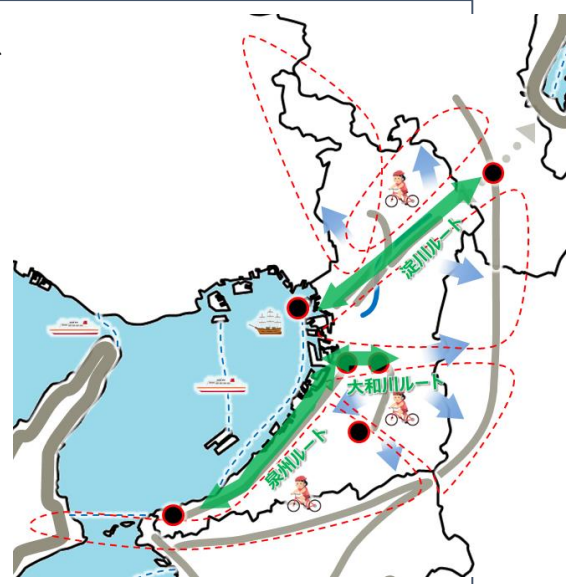




事業
内容

広域での自転車活用の情報発信等を充実させるとともに、
自転車を活用したまちづくりの機運を醸成する。

- ◆ サイクルステーションや休憩施設等の情報発信
- ◆ 広域連携会議（府県・市町村・民間団体）
- ◆ サイクルルートの発掘・発信
- ◆ サイクリングマップの作成やアプリ化による利便性の向上
- ◆ サイクルイベントの連携や共催



得られる
成果等

<目標>

- ◆ 2025年の大阪・関西万博に向けて、多様な来阪者が自転車で周遊することで、魅力あふれる広域連携のまちづくりを推進する。
- ◆ 万博後は、万博による人の交流やにぎわいの創出の効果を持続させるべく、地域主体、民主導によるまちづくりの推進を目指す。

<企業のメリット>

- ◆ 企業のイメージ・認知度UP
- ◆ SDGsへの取組みなどのPR効果
- ◆ 地域資源を活かした新事業への展開
- ◆ 新たなパートナーシップの構築



兵庫県加西市（空の駅うずらの整備プロジェクト）

背景

兵庫県加西市には、戦時中、姫路海軍航空隊がおかれ、現在も日本で唯一である当時の滑走路「鶉野（うずらの）飛行場跡（1,200m）」が現存し、また周辺には防空壕や機銃座など多くの戦争遺跡が点在しています。

現状の課題

戦後75年が経過し、体験者も減少していく中で、戦争の記憶と平和の尊さを伝えていくことが大きな課題となっています。



事業の目的

鶉野飛行場跡と点在する戦争遺跡をフィールドミュージアムと見立て、ガイダンス施設と地域活性化施設を兼ね備えたフィールドステーション「空の駅うずらの」を整備し、平和学習と地域交流の拠点とします。

これまでの取組

これまで、鶉野飛行場跡を国より払い下げを受け、戦争遺跡群や散策遊歩道の整備を行ってきました。



兵庫県加西市（空の駅うずらの整備プロジェクト）

事業内容

令和4年4月オープンに向け、鶉野飛行場跡地にフィールドステーション「空の駅うずらの」（約1,200㎡）を建設し、内部で展示する九七式艦上攻撃機の原寸大レプリカやガイダンス設備の整備を行います。



得られる成果等

成果・目標

- ・平和学習の場として教育旅行の誘致
- ・平和の大切さを継承する語り部の育成
- ・連携する市町とともに平和ツーリズムを推進
- ・地域の農産物や地場産品が購入でき、地域と交流できる場の提供



- ・地域の活性化
- ・関係人口の創出

企業に求めるもの等

この平和継承事業の推進に共感いただき、整備費用に充てるご寄附をお願いします。また、この施設整備後の運営やイベントなどに参画や協賛いただける企業を求めています。



栲原町・森林再生プロジェクト

背景

豊かな森林資源を有しているが、木材の市場価格の変動に左右され、森林の価値を最大限に高められていない。



現状の課題

林業を生業とする技術者の減少が進み、持続可能で豊かな森林の維持ができない。よって、山村の文化の継承が困難となる。



事業の目的

森林の新たな価値の創造



- ・ 林業技術者の増加
- ・ 森林の適正な管理促進
- ・ 関係人口の増加
- ・ 観光産業の活性化



これまでの取組

- 森林組合による **F S C** 森林認証取得
- 先進企業との協働の森づくり事業
- 木質バイオマス地域循環モデル事業
- 森林セラピー基地認定

- 公共施設への木材の積極的利用
- 隈研吾氏設計施設 6 棟建設
- 環境モデル都市指定（平成21年1月）

栲原町・森林再生プロジェクト

事業 内容

ウェルネス栲原

～誰もが森林の恩恵を享受できる社会を実現～

- 新しい日本の社会づくり
- 人づくりプロジェクト
- 担い手育成プロジェクト
- 地域のブランディング



得られる 成果等

成果・目標

- ・森林に人を呼び込む
- ・森林観光業の促進



- ・森林を生業とする人材育成
(20人／5年)
- ・森林関係人口の増加
(5,000人／5年)

企業に求めるもの等

- ・人材派遣と交流による協働の森林づくり
- ・本プロジェクトへの資金提供

企業のメリット

- ・持続可能な社会づくりへの寄与
- ・企業の人材育成
- ・心身のリフレッシュ